

平成 29 年 3 月

平成 29 年度事業計画

学校法人 沖永学園

1. 学園の現状と基本方針

沖永学園は、創立以来社会のニーズに応えるため組織の設置・改善を重ね、現在では短期大学1・高等学校1・中学校1・幼稚園2を擁している。「礼儀・努力・誠実」を建学の精神とし、帝京大学グループとしてのメリットも生かしつつ、人格を磨き社会で役立つ実学を重視する。

2. 教育研究に係わる課題と方針

(1) 帝京短期大学

① 生活科学科

<生活科学専攻・養護教諭コース>

教員養成に向けて次のような取り組みをしている。渋谷区教育委員会と連携した実習や特別講義、スクールボランティア活動等を充実させ、学生の現場対応能力の向上に努める。平成 25 年度養護教諭 1 種免許の取得ができるように、専攻科養護教諭専攻(2 年課程)を開設し、さらに専門性や実践力の向上を目指している。専攻科では、渋谷区以外にも(世田谷区、府中市、横浜市など)積極的にスクールボランティア活動に参加し、実践的な学びを深めている。また、1 年次からの採用試験対策や卒業生のリカレント教育の場として卒業教育にも力を入れ、卒業生と在校生の交流を図り意欲的に学べる機会を設けている。

<生活科学専攻・生活文化コース>

学生の社会性育成のプログラムの精度を高めるため以下のように改善する。⑦学生の地域貢献力の評価方法として 10 程度の工程の修得レベルの評価システムを作成する。学生は演習での活動分野ごとにプロジェクトチームを形成し地域への貢献力を高める⑧前年度観光関連科目を新設したが、観光業は様々な業界に関連していることや就職活動という観点から、1 年生時のインターンシップに加え 2 年生時にビジネス研修を実施する。⑨渋谷区、近隣商店組合や自治会との協定の下での花活動、こども食堂等の地域事業への参加や、ささはたカフェと連携した地域社会とのコミュニケーション促進により、学生の地域社会性をさらに高める。

<食物栄養専攻>

平成 29 年度より、給食管理実習校外の必修単位が 1 単位となるため、学生が良好な学習成果を獲得するための学習計画および事前・事後の充実を図る。昨年度まで事前指導は、担当教員ごとに行っていたが、今年度は、指導の共通性を保つため、全学

生合同による指導を取り入れて実施する。新入生の授業に対する興味向上や資格取得のための情報提供をするために、教員による指導に加えて1年生と2年生の交流の場を設け、より充実した学生生活をおくれるようにする。

②こども教育学科

学生の現場対応力強化を重点課題とする。具体的対応としては、渋谷区の教育委員会および子ども家庭部の協力による、実習に向けての第一歩として幼稚園・保育園での1日参加実習での事前指導および、ボランティア活動への参加、また、帝京こども教育研究会(平成21年発会・年2回実施)に参加し、講演・グループ幼稚園(4園)の研究発表を聞き現場を知る。さらに、キャンパス内にある帝京めぐみ幼稚園で空き時間を利用した体験実習を行い連携を充実させる。キャリアサポートセンターと連携し公務員試験受験指導に力を入れる。

③ライフケア学科

<臨床検査専攻>

昨年度のカリキュラム変更では新科目の「ボランティア概論」で地域の方々との交流や学生のボランティア意識の向上につながったので、本年度はより充実した内容としていく。新カリキュラムは、一人でも多くの学生が3年間で目標を達成出来るようにと余裕のあるカリキュラム編成を行ったが、当初の意図とは反対に留年生の減少には繋がらなかった。本年度は担任業務を強化し、学生に早い時期からしっかりと学習習慣を身につけさせ、こまめな小テスト実施で成績が伸び悩む学生の指導強化を行なう。入学前スクーリングをより効果的なものにする。2年生に対しては講義と実習を通してバランスの良い学生の育成、3年生は早い時期から国家試験対策に取り組み全員国家試験合格を目指す。また、学習環境充実のため設備機器等の整備を行っていく。

<専攻科臨床工学専攻>

学位授与の要件を満たす専攻科として平成25年度から大学評価・学位授与機構の認定を受けている。臨床工学専攻では、広汎かつ高度な専門知識を有する人材を育成するために、工学の専門知識や技術ならびに医学の幅広い知識を修得できるよう授業の充実を図り、国家資格取得を目指す学生の専門性をさらに高める。

<柔道整復専攻>

臨床の現場で必要とされる「治す力」を備えた柔道整復師の育成を目指す。学生がしっかりと知識・治療技術を習得できるよう、さらに患者と良好な関係を築くためのコミュニケーション能力を獲得できるよう、教育の充実を図る。具体的には臨床実習内教育(2年次に実施)、および客観的臨床能力試験(OSCE)(3年次に実施)において医療面接の指導を充実させていく。また、平成28年より取り組んできた授業や実習を通じて「当たり前のことが当たり前でできる」を目標に日常的な事柄についての指導を継続していく。つまり、「身だしなみ、挨拶、学習習慣の確立」等の基礎的な事項をすべての教員が一丸となって指導に当たる。さらに、平成30年実施の新カリキュラム導入の準備、新しい臨床実習制度に対応した附属実習施設の整備を行っていく。

④通信教育課程

説明会、卒業生(同窓会)等を通じて学生募集活動(特待制度を含め)を強化する。就職希望者に対する情報提供、フォロー体制を強化する。入学オリエンテーションの充実を図るとともに、在校生に対して、学生便覧、サブテキスト、帝短通信・担任等を通じてレポート作成のポイントや注意点等への学習指導を充実させる。

(2)帝京八王子中学・高等学校

知・徳・体の全人教育を、生徒の個性と発達段階に即して行い、健全な育成を期することを教育目標とする。努力をすべての礎として、教育目標達成の手段として校訓『礼儀・努力・誠実』を定め、入学した生徒が一人の例外もなく大きな成長を遂げて卒業し、更に希望進路を実現できるよう、面倒見よく愛情に裏打ちされた厳しさの中にも暖かさをもった教育・指導・助言を行う。また、それを実現させるため、教職員への研修をアクティブラーニング・教科指導研究・進路指導研究など、先進性を重視して計画的に参加・実施する。

平成28年4月より、特進医療系コースとして教育課程の合理化を行っているが、平成30年度の導入に向けて特進文系コース・文理コース・中学過程ともにクラス編成や教育課程の合理化に向けた準備を進めてゆく。それらを広く地域社会に周知することにより、本校の教育に適性を持つ生徒のより多くの入学を実現させる。

(3)帝京めぐみ幼稚園

遊びを中心とした生活を通して、一人ひとりに応じた総合的な指導を行う。そのためには、幼児理解に基づいた計画的な環境の構成によって幼児が主体的に取り組み、遊びへの意欲を持てるようにする。具体的には、身近な動物への触れ合いを通して「思いやり」「優しさ」の心を育み、命の大切さを学ぶ「動物介在教育」を引き続き実施する。また、帝京短期大学食物栄養専攻学生による給食を取り入れた食育を実施している。さらに、短大キャンパスを利用した活動や自然体験、花壇や畑作業、地域の小中学生の職場体験受入や幼稚園内外の様々な人々とのかかわりなど、社会体験、直接体験のできる場を取り入れる。

(4)帝京にしき幼稚園

幼児教育の質及び保育の専門性の自覚と資質の向上を目指す。そのためには、一人ひとりの幼児を理解するとともに自己を発揮する力を育めるような教育的な環境に配慮し、集団の中で個人が活かされるように、幼児同士がかかわり合うことのできる計画的な環境を構成する。具体的には、指導計画立案の充実を図り、幼児の発達を見通し、その発達が可能となるよう、それぞれの時期に必要な教育内容を明らかにし、計画性のある指導を行う。また、園行事や日常の活動を通して造形、身体、音楽など表現する楽しさや感動する心を育てる。

3. 教育環境の整備

帝京短期大学では、平成 30 年度に学務システムとコンピュータ演習室のシステム更新があるため、本年度は要件整備等事前準備を行う。また、サーバーの更新、教室の OA 機器の更新、実習機材の整備を順次進めていく。前年度、通学課程と通信教育課程のシステムを統合させたことにより通信教育課程学生の通学証明書の発行等事務効率化が図られている。図書館では、図書購入費のレベルを本年度も維持し、教育研究活動に資する書籍の購入を継続する。

帝京八王子中学・高等学校では、平成 26 年 6 月に新体育館「蔦永館」が竣工し、日々の体育の授業やクラブ活動はもちろん、伝統文化鑑賞会や吹奏楽部の演奏会・ダンス部の発表会など多目的に利用し、保護者や一般の来場者にも教育環境のアピールを行っている。

帝京にしき幼稚園では、各保育室の空気清浄機を更新し、園児の健康により配慮した保育環境を整える。また、園児・保護者の利便性を高めるため、園バスの買い替えを検討する。

4. 学生支援の充実（帝京短期大学）

保健室に複数の非常勤養護教員を配し、個々の学生の相談に親身に対応し学生相談支援委員会等を通じ担当教員と情報共有や必要な支援を行う。また、平成 27 年度からは帝京平成大学臨床心理センターが利用できることになり学生支援の一層の充実を図っている。学生相談支援委員会では、学生理解を深め指導に活かすために毎年全教職員を対象に研修会を開催している。

就職・進路指導にあたっては、キャリアサポートセンターが中心となって担当教員との連携のもと、学生をこまめにフォローすることで、全国短大平均を上回る就職率を目標とする。学生面談を実施し、適宜状況をフォローし就職・進学をサポートしていく。また、外部講師や新卒応援ハローワーク等と連携し就職指導の充実を図るとともに、内定者を囲んだ座談会や学内合同企業説明会等の機会も設けていく。

5. 学生募集計画（帝京短期大学）

アドミッションポリシーに合致した学生を受入れるため、8月から3月にかけて AO、推薦、一般、社会人など多様な入試制度を取り入れ、大学入試センター試験利用入試においても募集していく。対面イベントとしては、3月に高校2年生を対象とした春のオープンキャンパスを実施している。6月に高校3年生と保護者を対象とした入試説明会を実施し、7～10月に開催するオープンキャンパスへと繋げている。また、教員自らが高校訪問を行い、本学の教育内容を説明するとともに募集活動に努めている。

インターネットやスマートフォンの普及に伴い、新聞や雑誌等の紙媒体から Web 媒体への移行をすすめる、より効果的な広報活動のためホームページ、スマートフォンサイトにも力を入れていく。さらに、見学者や電話の問い合わせに対し、懇切丁寧な対応をすることで志願者の増加に繋げていく。

6. 地域社会への貢献（帝京短期大学）

平成 27 年度より地域貢献推進室の事業展開によって、全学的に短期大学周辺地域の美化活動を実施している(東京都、渋谷区と提携)。また、渋谷区と地域の 10 商店街が地域コミュニケーションのために設立した「ささはたカフェ」に参加し地域と短期大学の結びつきを深めている。これまでの地域イベントへの参加、帝京短期大学ボランティア隊活動に加え、東京ふれあいロードプログラムの下での地域花活動、こども食堂の運営協力等新たな地域社会への参加を展開している。その中で学生の学びの場としての効果を高めるよう学生指導を工夫する。昨年度電子化した TJC チケットは、商店街・短期大学学生双方にとってより利便性のある内容に向上させていく。

7. 自己点検・評価（帝京短期大学）

平成 29 年度は、28 年度より実施した PDCA サイクルによる学習成果報告書を各教員が活用し、授業の自己点検・評価及び改善に繋げるようにしていく。各部署で実施している自己点検・評価について、報告書を作成する。新任の教員を対象に自己点検・評価についての研修会を実施し、理解を深めてもらう。

8. 平成 29 年度予算の概要

(1) 収入

短期大学の学納金は、複数の専攻の定員割れにより前年度予算比減収の見込み。帝京八王子高等学校は在籍学生数減により前年度比減収、帝京めぐみ幼稚園、帝京にしき幼稚園の学納金はほぼ横ばいを見込む。沖永学園全体では、学納金は前年度予算比減収の見込み。

(2) 支出

各学校・幼稚園とも給与改定・定期昇給と、短期大学、幼稚園の教職員増員による人件費増を見込む。

(3) 事業活動収支差額

事業活動収支差額は、収入減少により前年度比減少となるが、法人全体では引き続き無難な水準を維持する見込みである。

以 上